



Risk Flash No.23 (Vol.2 No.9)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1

TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 経営の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 今週の著書紹介：不確実性とリスクの科学哲学史・・・・・・・・・・・・Page 2
- 教員紹介：大浦啓輔・リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・Page 3

経営の視点

ひろなかちかこ
企業経営学科教授 弘中史子

3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆さまに対し、心よりお見舞い申し上げます。

今回の大震災は経済にも深刻な影響をあたえました。製造業においては、素材・部品の供給や、物流ラインへの被害が甚大でした。その結果、国内だけではなく海外の大企業までも生産ラインの停止に追い込まれたのです。しかし、ものづくりの今後を考えるときに、気がかりなのは中小企業の動向です。

日本の製造業は産業構造で2つの特徴を持っています。第一に、大企業の素材や部品の内製率が決して高くないことです。自社ですべて内製するよりも、優れた素材や部品を活用することで完成度の高い製品をつくりだしてきたのです。たとえば自動車は約3万点の部品から構成されていますが、そこには多くの中小企業関わっています。

第二は、日本の製造業は基盤技術に強みを持つということです。具体的にはプレス、成形、めっき、鋳造といった加工や、工具や金型、工作機械などの設備製作で高い技術を誇っており、多くの中小企業が活躍し

ています。これらはサポーティング・インダストリーとよばれており、まさにものづくりを支える産業です。基盤技術が強いからこそ、難易度の高い顧客の要求に対応でき、高い品質や迅速な生産の立ち上げを実現してきました。しかもこの基盤技術は、自動車や情報家電、航空機などあらゆる業界で共通して利用されているのです。

このように考えると、日本の製造業の強みは、中小企業が支えている部分が大いことがわかります。しかし中小企業は震災前にも、為替の急激な変動、新興諸国の台頭によるグローバル競争の激化など、たくさんの苦難を抱えてきました。震災がそれに追い討ちをかけ、中小企業が衰退してしまうようなことがあれば、日本の将来のものづくりに負の影響をあたえてしまいます。燃料電池やロボットといった次世代のものづくりにおいても、高度な部品や基盤技術は欠かせないからです。

今こそ私たち一人ひとりが、中小企業をどのように支えていくかを、長い眼で考える必要があるでしょう。

今週の著書紹介

リスクと不確実性の科学哲学史

著者：滋賀大学名誉教授（リスク研究センター客員研究員）酒井泰弘
収録：青木正直・青山秀明・有賀裕二・吉川洋監修
『50のキーワードで読み解く経済学教室』
東京図書、380-389 ページ、2011年5月25日発行

さかいやすひろ



概要：人間社会と自然環境は、リスクと不確実性に満ち満ちている。多様なリスクの中には、降水確率や平均余命のように「確率的に数量化できるリスク」と、留学の夢の実現や原発事故のように、繰り返しがあまり効かず「数量化が困難なリスク」との二種類が存在する。後者のリスクは、「未知のリスク」、「恐ろしいリスク」などの「リスクの質」の問題にも関係する。これらのリスクは、不確実性の考え方に近いものである。

本論文の内容を列記すれば、次のようになる。1. リスク・不確実性と人間生活との関わり。①「地震・雷・火事・親父」から「放射能・温暖化・ゴミ・エイズ」まで、②リスクの定義と不確実性との関係。2. 草創期のリスク思想。①サイコロの賭けと

確率論的思考、サンクト・ペテルブルクのパラドックスとその解決、③リスクの過大評価と過小評価。3. 不確実性とアニマル・スピリッツ。①リスクと不確実性との相違、③企業家と利潤とアニマル・スピリッツと。4. ゲーム論的状况と市場のワーキング。①ゲーム理論の誕生と確率的な混合戦略、②非対称情報と市場のワーキング。5. 新しい世紀の新しい潮流。

将来においては、リスク学への総合的・学際的なアプローチが切に求められている。そのためには、経済学、社会学、心理学、歴史学、人類学、生物学、物理学、工学、医学など、人間の英知をすべて結集する必要がある。

著者のつぶやき

「物凄い本が出てきたものだ！これからの経済学研究者は、物理学も本格的にマスターしなければならないよ」これこそが、本書の出版企画に関係し、友人たちからの依頼によって項目執筆を担当した著者の偽らざる心境である。

本書の構成を見ると、従来の経済書にはほとんど見られない理系の項目のオンパレードだ。例えば、「経済変動を物理的に理解する」、「平衡、ゆらぎ、安定性」、「経済学における統計物理学の活躍」、「寺田寅彦から南部陽一郎へ」、「環境エネルギーと経済物理学」、等々の項目が続くのである。新しい経済科学が誕生しつつあるのかもしれない。なにしろ、かの高名な寺田寅彦が「社会経済物理学の先駆者」の一人に挙げられているのだ。例えば、高速道路

上における車の渋滞の問題は、ミクロ経済やマクロ経済の従来手法では満足に分析できず、むしろその壁を乗り越えた「統計物理学的方法」が非常に有効であると言う。

私は過去50年間、「胴体は理論経済学、右手は英語、左手は数学」という感じで幾多の経済問題を研究してきた。時には、歴史学や心理学・宗教学の勉強も積極的に行ったこともある。ところが、これからは統計力学、素粒子物理学、物理化学、生物物理学など、物理学の本体や諸々の周辺分野をも十分咀嚼しなければならないのだ。「経済学者は忙しくなってきたね。睡眠と勤労のバランスを破ってでも、対称性の破れを習得しようではないか！」人生は長いようで短い。私はそれでも初心に戻り、謙虚に再出発する気持ちを固めている。

教員紹介「大浦啓輔」

(1) 研究テーマ：組織間マネジメントにおける管理会計

近年、外部組織を戦略的に活用しようとする実務が急速に発達し、単一組織の枠を超えたマネジメント（組織間マネジメント）の成否が、企業の戦略実現を叶える鍵の一つとなっています。その典型であるアウトソーシング、サプライチェーン・マネジメント、戦略的提携や合弁事業などにおいて、会計情報はどのような意義や役割をもつのでしょうか。実は、これまでの管理会計研究や教育は、企業の“内部”管理のための会計という前提のもとでなされてきたため、組織間における会計情報の役割や課題については、未解明な点が多く残されています。これらの一つずつ明らかにしていくことが私の課題です。

(2) 研究以外での関心事

趣味というほどではありませんが、実家が茶業を営んでいることもあり、幼少の頃からお茶に触れる機会が多くありました。研究で頭が疲れた時など、茶葉から淹れてお茶を飲むとリフレッシュできます。最近では、専門店も増え、日本茶、紅茶、中国茶それぞれに

多様な種類のお茶が簡単に手に入るようになりましたので、その日の気分に合わせて色々な風味を試すのが、最近のささやかな楽しみになっています。



会計情報学科准教授
おおうらけいすけ
大浦啓輔

(3) 今後の抱負

前述した研究テーマに関連して、中長期的に以下の課題に取り組みたいと考えています。まず、バイヤー・サプライヤー間における協働、とりわけ会計情報の共有の阻害要因や促進要因についての調査を行う予定です。また、外部組織のマネジメント問題を考える際にリスクの視点も取り込む必要性を感じています。なお、今年度は、その予備的な考察として、物流機能のアウトソーサーによるリスク管理の実態についての分析を行いたいと思っています。

リスク研究センター通信

図書館が提供する電子ジャーナル等データベース

本学彦根地区において電子ジャーナル等データベースが導入されて本年は 10 年目となります。本学の電子ジャーナルは、2001 年の彦根地区図書委員会（当時小西中和委員長）において導入が検討されたことに始まります。当時図書委員の宮西賢次教員を中心に検討協議され、その後、各学科会議での説明・了承を受けて 2002 年から次の 3 件を導入することとなりました。世界のトップジャーナルを収録する Science Direct (Elsevier 社)、多数の経済経営系ジャーナルを収録する EBSCOhost (Business Source Elite)、学会誌を中心にコアジャーナルがすべて創刊号から収録の JSTOR (Arts & Sciences I collection, メロン財団：非営利団体) です。

電子ジャーナル導入のメリットとして、① 24 時間何処からでも文献アクセスが可能、② 利用可能文献の大幅な増加、③ 文献活用の効率化と運用の利便性の改善、④ 書庫スペース

の節約、⑤ 雑誌受入管理事務の作業解消、⑥ 重複雑誌の購読中止によるコスト節約、⑦ 文献複写による収益の確保等、を上げています。また、導入メリットがもたらす電子ジャーナルの戦略的意義として、① 教育研究上の生産性向上による競争優位の維持・拡大、② 教育研究基盤に関する外部評価の改善、③ 海外を含む大学から有能な研究者をリクルーティングすることが容易になる、④ 電子化で節約された資金を元に滋賀大学にユニークな文献の戦略的収集の強化が挙げられます（参照：宮西賢次「[図書館ビッグバンー電子ジャーナル導入計画一](#)」『図書館だより』第 24 号 2001 年 10 月）。電子ジャーナル導入のための初期主要原資は、① 電子ジャーナルに収録の冊子購読雑誌の中止、② 「有価証券報告書総覧（東証一部上場企業冊子全セット）」の購入中止により捻出しました。

その後、国立大学図書館協会 (JANUL) の電

子ジャーナルコンソーシアムが本格活動し、多くの電子ジャーナルが JANUL の交渉対象となったことを受けて、滋賀大学もコンソーシアムへ積極的に参加してきました。

現在では、初期導入時の 3 誌は収録内容を拡大し、①Science Direct(現在契約の約 90 誌が創刊号から全文可能となる)、②EBSCOhost(Business Source Premier に 2011 年から変更 + EconLit)、③JSTOR(Arts & Sciences I&II, Business I, Mathematics & Statistics collection)と利用収録誌を大幅に増加しました。そして、Springer(約 1,900 誌)、Oxford University Press(約 170 誌)、Wiley-Blackwell(約 480 誌)、Cambridge University Press(人文社会分野約 160 誌)、NBER Working Papers Online 等も導入し、全文利用が可能となりました。また各出版社等

の電子ジャーナルを統合しタイトルを ABC 順にリスト化した「電子ジャーナル A to Z」の提供や Web of Science(学術文献引用索引データベース)等のデータベースと電子ジャーナル各文献のリンクを可能にした「リンクリゾルバ」を導入し、利便性をはかってきているところです。

電子ジャーナル導入前の外国雑誌購読は数百タイトルでしたが、現在では数千タイトルが利用可能となりました。教育研究へ有効に活用されるよう、今年も利用者講習会等を図書館では計画しご案内する予定です。限られた予算から、コスト・パフォーマンス、コスト・ベネフィットの検証も必要であると考えています。図書館では利用者の皆さんからご意見ご要望やご質問等をお寄せくださることを願っています。

(図書情報課副課長 さわしょういちろう 沢庄一郎)

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター(以下、リスク研究センター)が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況があった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第59号)に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題(メールの遅延、消失)等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3/12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、金乗基、久保英也、

澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局

(Office Hours: 月-金 10:00-17:00)

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1

TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>